

登山月報



明けましておめでとうございます 会長 八木原 暁明	2
Team HITOKARI Tengi Ragi Tau Exp.2017 報告書	3
第7回日本山岳グランプリ	5
エルキャピタン・ノーズ スピード記録更新	5
第110回 Mountain World	6
「山の日」制定記念 一ふるさとの山を登ろう	7
阿里山プロジェクト報告	8
平成29年度 登攀技術研修会、主任検定養成講習会、上級指導員養成講習会報告	10
スポーツクライミング 第13回ボルダリングジャパンカップ一般参加選手選考会	11
第4回海外登山懇談会「カナダのアイスクライミング」報告	13
JMSCA、寄贈図書、編集後記	14

No.586 新春号

明けましておめでとうございます

会長 八木原 罔明

明けましておめでとうございます。今年こそ会員の皆さん、日本中の登山愛好者の皆さんが安全で楽しい登山を続けて欲しいと思います。昨年3月27日、栃木県那須町のスキー場周辺で春山安全登山講習会中の栃木高体連登山専門部員7人と顧問1人が亡くなるという雪崩による痛ましい事故が起きてしまいました。

事故直後に設置された雪崩事故検証委員会は昨年10月報告書をまとめ、事故発生の要因と悲惨な事故を繰り返さないための具体的な取り組みなどを示し、高校生等の冬山・春山登山の事故防止のための有識者会議は再発防止策をとりまとめています。

これら公表報告書を熟読理解して実行して欲しいと思います。もちろんそれは高体連関係者だけには留まりません。私共全ての登山者に課せられた責務です。

辛い報告から始まりましたが、ここ数年は私ども日山協にとって大きな動きが続く日々でした。平成25(2013)年9月7日にヴェノスアイレスでのI O C総会で2020年のオリンピックが2度目の東京開催と決まった日からそれは始まりました。

開催都市が決められる追加種目にスポーツクライミングが立候補し、20余種目が数種目に絞られる中で残るうちに、若者のスポーツ離れを危惧するI O Cの「若者が指示する種目を入れたい」との意向が伝わるにつけ、私共の期待は大きくふくらんで行きました。

私共は1昨年夏のリオデジャネイロオリンピック開会直前のI O C総会の結果を待たずに協会名変更の検討に入りました。決して国際スポーツクライミング連盟(I F S C)からの圧力があったわけでもなく、日本体育協会の名称変更に対応したものでもありません。

社会が大きく動き、変わりつつあるこの時代に私共に真っ正面から関わる五輪問題が起こったのです。変化に対応できなければ、しなければ置いて行かれるのは必定です。また段階的に出される様々な結論を待っている間は間に合わなくなるという判断でもありました。

平成27年11月に「スポーツクライミングの五輪競技種目化に伴う中央競技団体の在り方と組織について」を諮問することとし、神崎忠男前本協会長を座長とする10名からなる諮問委員会が設置され、翌年4月に組織体制の見直し、協会名の変更、スポーツクライミングの広報強化などが答申されました。



そして理事会、臨時総会などを経て昨年4月の平成29年度から「公益社団法人日本山岳・スポーツクライミング協会」と改称し、理事も平山裕示副会長他スポーツクライミングを良く知る方々が新常務理事に就任し、名実共に変わり、発進することが出来ました。

次に新体制が取り組むべきはもう1つの輪、登山の再生です。オリンピック、オリンピックと浮かれていてどうする、「これまでの登山」をどうするのだ、と言われます。伝統的な登山の隆盛は放っておいて戻ってくるか？ 黙っていても歴史は繰り返してくれるか？ そんなはずはありません。

日本の登山愛好者人口は800万とも900万とも言われますが、登山界の組織率は1パーセントに足りません。私ども日山協、労山、日本山岳会を合わせて75,000人程です。これが組織登山者の実態です。会員の超高齢化、若い人達の組織離れは全国の問題です。

そして日本は人口減少社会に入っています。老いも若きも組織への入会拒絶。思い切ったアイデアを実行しなければ可能性はありません。「山の日」も浸透し始めました。「山登り」を再び隆盛へと導き、非組織登山者への働き掛けも積極的に推進しましょう。登山界が、登山者が大同団結しなくてはじり貧になります。私共も具体的に動き始めました。一緒に変わりました。本年もよろしく願い申し上げます。

Team HITOKARI

Tengi Ragi Tau Exp. 2017報告書

1. 初めに

Tengi Ragi Tau 峰 (テンギラギタウ) はネパールのロールワリン氷河最奥のナ村からツオーロールパ湖を越えトラムバオ氷河に入ると見える 6,943m の山である。初登は 2003 年北海道隊が南東壁から初登頂している。山の全方位簡単に登下降できるルートはなく、初登以後数隊に挑戦されているが第 2 登はまだである。2014 年にアメリカ隊が西壁の 6,500m 付近まで達しているが悪天のために敗退している。今回は未登の西壁にアメリカ隊の採ったルートの北側にラインを見出し挑戦した。

2. 登山記録

Tengi Ragi Tau 6943 m 西壁敗退

期間：2017 年 10 月 15 日～ 16 日

メンバー：高柳傑(29)、松本栄二郎(31)、淀川裕司(27)

行動概要

カトマンズ到着後、買出し、エージェント及びガイドとの打ち合わせ、パッキング等の準備を済ませ出発。日本からの飛行機でロストバゲージがあり 2 日間のロスがあった。(day 1～5)

車移動を含め 5 日間のキャラバンで N a 村に到着。N a 村のロッジを B C と設定する。ガイド(1人)とポーター(7人)は先行してロールワリン氷河 4,600m 地点に A B C を設営。ガイドはこれ以降 A B C 常駐を基本とした。ポーターは下山。(day 6～10)

高所順応のためトレッキングピークである Yulung Ri の B C へ日帰りトレッキング。

1 日の休養を挟み A B C へ移動。(day 12～13)

高所順応を兼ねての荷揚げの後、Tesi Lapcha 峠基部 5,500m にテンギラギタウ及びパルチャモへの拠点



として C 1 を設定。(day 14～15)

順応登山としてパルチャモ 6,273m へ登頂。テンギラギタウ偵察をしつつ N a 村まで戻り 4 日間休養。(day 16～24)

N a 村から C 1 へ移動。1 日西壁の偵察の後、登攀を開始。6,300m 地点の氷壁でビバーク。登攀 day 2、1 ピッチ登るも敗退を決定し下降。C 1 へ。(day 25～29)

休養を挟みつつ N a 村まで戻る。この時、装備はパッキングし A B C に残置した。再度手配したポーターとガイドにより A B C 撤収 (day 30 から 33)

A B C の撤収を終えて降りてきたガイド・ポーターと合流し下山を開始。3 日間でカトマンズに到着。(day 34～38)

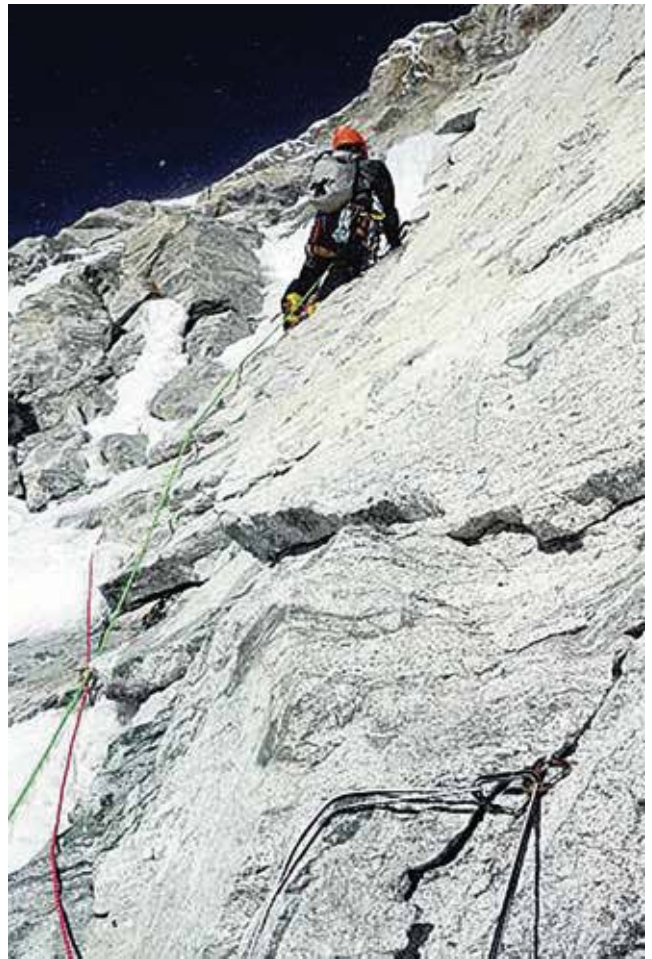
登攀

ヘッドランプを点け C 1 を後に、1 時間程モレーンを歩く。偵察時デポしたギアを身につけ、アンザイレンし崖錐状に積もった雪氷へ取り付いた。3 人パーティなのでリードは固定。最初は高柳から登り始める。同時登攀を交え 2 ピッチ登ると崖錐状の頂点からガリーに入っていく。傾斜が強くなり 60°～80°のミックス・クライミングとなるが氷質は良くなくアイススクリューは効かないので側壁からカムでプロテクションを取る事が多い。ただし岩も非常に脆いためカムのセットは慎重なものであった。登攀時のザックはリードとフォローで重量差をつけていたが、高所でのザックを担いだクライミングで激しく息切れし、前腕がパンプした。ガリーのミックスを 2 ピッチこなすと傾斜が緩くなり雪氷壁が続くので、ここはセルフジャミングプーリーを用いた同時登攀で高度を稼いだ。この雪氷壁もルンゼに沿ったもので側壁から岩のプロテク



ションを多用した。徐々に傾斜が強くなりリードを淀川に交代。ピッチを切りながら進む。偵察時雪が薄く見えた箇所もあり、日が当たる時間帯となっていたので不安はあったが、細々と薄い雪氷が繋がっていたので進むことができた。淀川が6ピッチロープを伸ばし松本に交代。同様に雪氷壁を進む。標高のせいか時間帯の問題か徐々に風が強くなり数回スノーシャワーを浴び、疲労も相まってペースが落ちる。5ピッチ目の途中で日が暮れ、急激に気温が下がってきたので登攀終了。幕営適地は無く、なんとか3人腰を掛けられる程度のテラスを3時間ほどかけ、雪氷壁に作り半分宙に浮いたテントで座ったまま夜を明かした。

登攀2日目。夜の最低気温はそれほど低くなく（おそらく-10度程度）悪い姿勢ではあったが思ったよりは寝る事が出来た。すっかり明るくなってから行動開始。高柳リードで小リッジを超え雪田に出る。3人そろってその後のルートを見上げるが、雲行きが怪しい。偵察時雪が繋がりと登れると思った側壁のラインは予想より傾斜が強く、不安定な雪が覆いかぶさっていた。それまでの雪氷の状態を加味してルートの再検討を余儀なくされた。偵察時いくつかのラインを候補に挙げていたがどれも雪氷の状態、傾斜、落石等から諦めざるを得ず、敗退を決定。下降を開始した。下降は



初め数回を除きほとんど同ルート下降する事が出来たが氷も岩も状態が悪く支点の構築には時間がかかった。降下中落石も多く、常に誰かが意識を上に向けていないと危険であった。

Vスレッドを用いた下降は、最初の1回のみでハーケン、ナッツ、後半はカムも残しながら16回の懸垂下降で取付きまで下降した。

登攀装備

ロープ8.1mm*60m / 1本、8.6mm*60m / 1本、X4#0.3,#0.4 / 1set、キャメロット#0.3~#0.75,#3 / 1set、キャメロット#1~#2 / 2set、リンクカム0.75 / 1個、ストッパー #3~#8 / 1set、トライカム#4~#6 / 1set、ハーケン類 / 10個、レーザースピードライト13cm×3,17cm×5,21cm×1本、スノーバー / 3本、スリング120cm / 6本、アルパインクイックドロ / 10本、捨て縄5mm*30m、マイクロトラクション / 3個、テント(ゴアライト) / 1張、リアクター / 1個、ガス缶大 / 1個、中2個、シュラフ / 3個、マット60cm / 3枚、テルモス900ml / 2本

4. 終わりに

本当に登れなかったのか。同じ敗退でも全力を尽く



し、ボロボロになるまで耐え、それでも登れなかったのなら後悔はなかったように思う。諦めるのが早すぎた。なぜギリギリまで粘らなかったのだろうか？

それまでのトレーニングは。計画は。いくら考えても尽きる事は無い。自分に言い訳をして目先の楽しいクライミングに逃げ、大きな山に取り付きもせず敗退しているのではないか。今一度、何のためにクライミングをやっているのかを考えながら、それでもなお純粋な楽しさを感じて一つ一つ丁寧に登って行こうと思う。

(東京農業大学農友会山岳会 淀川裕司)

第7回日本山岳グランプリ

第7回日本山岳グランプリは、長野県山岳協会から推薦のあった古原和美氏に決定した。

古原氏は、大正12(1923)年2月、熊本県に生まれる。1948年に熊本医科大学を卒業後、1956年に医学博士号(熊本大学)を取得。1956年から長野県大町保健所所長、豊科保健所所長などを歴任し、1992年退職。その間、信州大学医学部順応生理学教室などで非常勤講師を務める。其の後、日本登山医学会の創立に尽力されるなど長年に亘り登山医学に果たされた功績は多大である。

1942年頃から故郷の傾山・阿蘇山塊で数々の初登攀を記録した後、信州に移られてからは、後立山連峰を中心に活躍。1958年には深田久弥氏らと一人30万円のライト・エクスペディションをネパールのジュガール、ランタン・ヒマラヤで実践され、後進に夢と希望を与える。1961年に長野県山岳連盟(当時)の初代会長に就任された後、1964年には岳連隊を率いてギャチュンカンの初登頂に成功するなど国内外で活躍された。



エルキャピタン・ノーズ スピード記録更新

ヨセミテ渓谷の象徴。エルキャピタンの南バットレス(ノーズ)は1975年に初めて1日以内で登られた。ジム・ブリッドウェル、ジョン・ロング、ビリー・ウェストバイのトリオが約17時間で完登したのである。当時、ヨセミテのリーダー格だったブリッドウェルがメスナーとハーベラーのアイガー北壁ワンデイ・アッセント(10時間)のニュースを聞き、「オレたちにもできるぞ」と、奮い立って挑戦したのだった。

その後、91年にピーター・クロフトとデイブ・シュルツが5時間切りに成功し、これが限界だろうといわれたが、更新競争はその後も続き、08年に平山ユージとハンス・フローリンがその半分近く(2時間37分)まで短縮。分秒を争う時代が訪れた。

10年にはディーン・ポッターとショーン・リアーが20秒短縮。12年にはフローリンがアレックス・オノルドと2時間23分46秒とした。

ブラッド・ゴープライトとジム・レイノルズは昨年10月21日、この記録を一気に4分2秒短縮して、2時間19分44秒の新記録で完登した。

氷壁が間近にせまる白銀の峰々のうちふところへ

アンナプルナ内院 トレッキング 15日間

発着地 東京・大阪・名古屋・福岡

出発日 4/10(火)

旅行代金 ¥448,000

※燃油サーチャージ(2017年12月20日現在:目安約12,000円~15,000円)が別途必要です。

旅行企画・実施 観光庁長官登録旅行業第490号/日本旅行業協会正会員/ボンド保証会員

ALPINE TOUR SERVICE 株式会社

〒105-0003 東京都港区西新橋2-8-11 第7東洋海ビル4階 ☎03-3503-1911

大阪 ☎06-6444-3033 名古屋 ☎052-581-3211 福岡 ☎092-715-1557

e-mail: info@alpine-tour.com http://www.alpine-tour.com

第110回 Mountain World

最後の冬季未踏峰 K 2 へ

池田常道

8000 m 峰 14 座のうち、ただひとつ冬季未踏で残った K 2 (8611 m) にポーランド隊が挑んでいる。冬季ヒマラヤ登山のベテラン、クシストフ・ヴィエリツキ (67) が 10 人のクライマーを率いる強力な登山隊で、同国スポーツ・観光省が 100 万ズロチ (24 万ユーロ) で支援するナショナルチームである。

ポーランドはこれまで 2 回、冬の K 2 に挑んで失敗してきた。1988 年は、アンジェイ・ザヴァダ隊長の下、サポートや撮影班を含めた総勢 41 人で南東稜を試みたが、C 3 (7350 m) の 30 m 上方で断念した。このとき、マチェイ・ベルベカは単身ブロード・ピーク (8051 m) を狙って登頂したが、惜しくもそこは前衛峰の頂だった。とはいえ、カラコルムでは初めての 8000 m 峰登頂ではあったことは疑いない。

2002 年にはヴィエリツキが隊長を務め、カザフとの合同で中国側から北稜日本ルート (1982 年) を攻めた。一部のカザフ勢が途中離脱するなど誤算はあったが、最後は 7650 m に最終キャンプを作り、デニス・ウルブコ (カザフ) がその 30 m 上部まで行って引き返した。ポーランド以外で冬の K 2 に挑んだのは、2012 年のロシア隊しかない。ヴィクトル・コズロフ隊長ら 16 人は肩に通じる南南東側稜を 7200 m まで登ったものの、1 隊員が高山病で死亡、断念した。

ポーランドのクライマーは 1980 年代に、冬季ヒマラヤ登山シーンを席卷した。1980 年のエヴェレストから 88 年のローツェまで 7 座に冬季初登頂し、残る 5 座のうちガッシャブルム I 峰 (8080 m) を 2012 年、ブロード・ピーク (8051 m) も 13 年に落とした。2005 年にはピョトル・モラフスキが、イタリアのシモーネ・モーロとシシャパンマ (8027 m) に登った。ポーランド人が関係しなかったのは 2009 年のマカルー (8485 m) と 2011 年のガッシャブルム II 峰 (8034 m)、2016 年のナンガ・パルバット (8126 m) の 3 座でしかない。

しかし、2000 年代を迎えてポーランドのヒマラヤ登山は往時の勢いを失った。ポーランドのヒマラヤ・アルピニズムを再興しようという機運が盛り上がり、ヴィエリツキや、ククチカのパートナーだったアルトウール・ハイゼルを中心とするベテランたちが若手

を育てるために、通常期の 8000 m 峰を登りなおすプロジェクトを展開した。そんななかから生まれてきたのがアダム・ビエリツキで、彼はガッシャブルム I 峰とブロード・ピークの冬季初登頂を成し遂げ、ナンガ・パルバットにも挑んだ。しかし、その過程でベルベカやハイゼルのベテランを失った。

冬季登山の口火を切ったザヴァダはすでに亡く、メスナーに続く 14 座登頂者で冬季 8000 m 峰登頂 3 座を誇るイェジ・ククチカもマチェイ・ベルベカもいない。今回のチームは、1980 年エヴェレスト冬季初登頂のヴィエリツキが、台頭してきた若手を引っ張るかたちになった。

隊員の筆頭はビエリツキ。それに、カザフのデニス・ウルブコが加わる。彼は 2013 年にロシアの市民権を取得し、15 年からポーランド国籍も取った。今回は晴れて同国民として隊に加わった。彼は 2002 年の K 2 で最高到達点に達し、2015 年にも北東壁を狙って隊を編成したが、新疆ウイグル自治区の政情不安を理由に許可をキャンセルされたことがある。このほか冬季ガッシャブルム I 峰やブロード・ピークに登ったアルトウール・マウエク、ヤヌシュ・ゴワブロ、K 2 北稜で最終キャンプまで登ったマルチン・カチカンがいる。

一行は 12 月 29 日にヨーロッパを発ってパキスタンに向かう予定。月 1 回ではあるが、進捗状況は逐一本欄でお知らせしていきたい。

ルートは南南東側稜で、「氷雪の状態によっては南東稜も考慮する」という。なお、酸素は緊急用のみに用いられるという。近年の 8000 m 峰冬季登山は、マカルーといいナンガ・パルバットといい、小人数でわずかなチャンスを生かす方法が主流だが、K 2 ではさすがにそこまで踏みきれなかったということだろう。



コンコルディアから仰ぐ K 2 内田良平撮影

「山の日」制定記念

—ふるさとの山を登ろう—

石川県 開山1300年の白山

白山は富士山・立山と共に「日本三名山」に数えられる。江戸時代の中頃、尾張国や三河国など東海地方の庶民に流行した、白山・富士山・立山の三霊山を順次に旅して登拝する「三山禪定」という山岳信仰が由来とされている。

もみち葉も ましろに霜のおける朝は 越の白嶺ぞ 思ひやらるる

平安時代中期の歌人のひとり和泉式部の詠んだ和歌である。「紅葉した葉に真っ白な霜が降りた朝は、越の白嶺が思いやられる」という意味で、往時の白山は「このしらね」と呼ばれていたことがうかがわれる。白山は奈良時代初期の養老元(717)年、越前の修験僧泰澄大師により開かれたと伝わり、昨年の平成29(2017)年は開山1300年の節目の年を記念する様々な行事が催された。

その後、山岳信仰が隆盛すると平安時代の天長九(832)年、美濃・越前・加賀に白山登拝の拠点となる三馬場が設けられ、馬場から絶頂へ登拝する三筋の禪定道が開かれた。

白山は主峰の御前峰や大汝峰とやや離れた別山からなり、各々の山頂に神祠が祀られている。御前峰の神は伊弉冉尊(白山妙理大権現)で本地(本来の姿)は十一面観世音菩薩、大汝峰の神は大己貴尊で本地は阿弥陀如来、別山の神は小白山別山大行事で本地は聖観世音菩薩で、泰澄大師が感得した神仏習合の神仏が祀られていた。

これら神々は仮の姿(垂迹)であり、本来の姿(本地)は仏や菩薩であるという、我が国独自の神仏習合思想である「本地垂迹説」に基づいている。



白山の聖地・翠ヶ池



室堂平の白山比咩神社奥宮祈禱殿

神道立国策を唱える明治新政府は、神仏が混淆する山岳霊場の社寺に対して「神仏判然令」を公布し、暴挙ともいえる廃仏毀釈を断行した。神社と寺院が一体化し、神職と僧侶が混在していた権現や明神から仏教色を排除するため、仏像や仏具を廃棄し僧侶は還俗(俗人に還る)を強制された。

明治時代初期の白山における廃仏毀釈も凄まじく、山頂や禪定道の仏像はことごとく廃棄された。白山信仰を護る村人の手で難を逃れた仏像は、山麓の白山本地堂と尾添白山社に安置保管されている。昨年秋、白山市立博物館で開催された白山開山1300年記念の特別展「白山下山仏と加賀禪定道」において、白山から下ろされた神仏や山頂で出土した信仰遺跡などが公開された。

白山には歴史ある三禪定を含め長短13本の登山道がある。加賀禪定道は馬場であった白山市の白山比咩神社から一里野までは車道に変わり、歩いても楽しくない。登山口となる一里野の祓谷から檜新宮～長倉山～四塚山～大汝峰を経て山頂に至る道のりは18^{km}あり、長倉山避難小屋利用となる。

白山登山者の大半は、市ノ瀬ビジターセンターから別当出合までシャトルバスに乗車し、砂防新道や観光新道を利用している。柳谷や別当谷の砂防工事の人工道を利用した砂防新道は、途中に甚ノ助避難小屋やトイレが完備され安心なコースである。砂防新道と観光新道は黒ボコ岩で合流し、弥陀ヶ原を縦断してハイマツ帯の五葉坂を登れば室堂平に着く。

室堂平には奥宮祈禱殿や宿泊設備(750人収容)の整った室堂ビジターセンターがある。室堂から40分ほどで、標高2702.1^mの一等三角点が埋設されている御前峰に到達する。夏季シーズン中は奥宮祈禱殿に常駐する神職が太鼓の合図で御前峰の奥宮に下駄を履いて登拝し、ご来光を仰ぐ日供祭が奉斎されている。

白山にはハクサンコザクラ・ハクサンイチゲ・ハクサンフウロ・ハクサンチドリ・ハクサンシャジンなど、名称に「ハクサン」を冠した高山植物が数多く18種類もある。江戸時代後期の文政五(1822)年、紀州藩士で本草学者の畔田伴在が白山に登り、高山植物を調査し著した『白山草木志』に初見の草花が記されている。

御前峰と大汝峰に囲まれた火山台地に、噴火口の翠ヶ池や千蛇ヶ池など神秘的な大小七つの池が点在する。最も大きい翠ヶ池は山頂直下の転法輪窟に籠った泰澄大師が祈念すると、九頭龍王に続いて本地仏の十一面観世音菩薩が出現したという聖地である。ま

た、千蛇ヶ池は万年雪が堆積したままで、民衆に危害を加えていた千匹の蛇を泰澄大師が封じ込め、雪の蓋をしたという。

距離は長いが三禅定道を歩くと、咲き誇る色鮮やかな高山植物群と白山信仰1300年の歴史や文化に触れることができる。

白山(石川県側)では、昨年の平成29年7月1日から登山計画書(登山届)の提出が義務化されたので、登山する際はインターネットや登山口の登山ポストに提出するマナーを忘れてはならない。

(石川県山岳協会副会長 石森長博)

阿里山プロジェクト報告

平成29年11月22日～11月27日、神崎忠男日山協顧問(HAT-J会長)をリーダーに山岳団体自然環境連絡会(日山協が幹事団体)の主催で阿里山プロジェクト(阿里山の森林観察と玉山登山とアジア自然保護会議)合同隊(日山協、HAT-J、JAC、都岳連、山宝クラブ)に32名が参加してきたので、概要を以下に報告する。

22日の早朝に羽田発のチャイナエアライン便CI223にて台北(松山空港)へ、台北から台湾高鐵(新幹線)に乗り継ぎ1時間半ほどで嘉義へ、更に3時間バスに揺られて、阿里山へ夕刻に到着し、宿舎の阿里山賓館に入る。各自自室にてシャワーなどで寛いだあと、夕食タイムとなり、ダイニングで同じアジア自然保護会議へ出席で訪台中の韓国チーム(李仁禎UAAA会長ら)とバツバツと鉢合わせ、彼らを入れて宴会となった。初日から思わぬ展開となった。

明けて2日目の23日、森林観察隊と玉山登山隊の二つに別れ、翌24日までそれぞれの行動となった。

森林観察隊

23日、玉山登山隊を見送った後、9時30分ホテルを出発。最初の予定では姉妹潭から受鎮宮に抜ける道に行く予定だったが、ホテルでその道は現在通行止めとなっていると聞き、直接受鎮宮に行くルートに行く。受鎮宮は古刹で参拝客が多い。「宮」とは「お寺」のことを指す。我々も参拝を済ませ、森林の観察ルートへ向かう。この森林は台湾ヒノキの森林で樹齢800年から2000年の古木が100本以上ある。胸高樹周りが10m以上あるものもある。「三代木」と言うのは、一代目が倒れた後その幹から萌芽して二代目となり、その二代目が倒れてそこからまた萌芽が出て三代目となる。

記念写真を撮るスポットとなっているため大変な混雑である。巨木群内の木道を全て歩いて神木駅に行く。日本が統治していた時代にこの台湾ヒノキを切り出して運んだ森林軌道が今では観光用軌道に利用されていた。ゆっくりだがなかなか風情のある気動車である。阿里山駅まで行き昼食後ホテルまで歩く。

24日、玉山登山隊と昼に合流するため午前中のみ行動。ホテルを9時に出発。沼平公園の桜の園を巡った。園の春景色はとても綺麗だろうと思わせる程であった。

それにしてもこの国家森林遊楽区はとても手入れがされておりゴミが落ちていない。台湾の人々の道徳心に感心した。

玉山登山隊

塔塔加登山口から拝雲山荘(泊)にて玉山主峰(3,952m)を登頂するピストン登山を行った。メンバーは中華民国山岳協会派遣の2名(林哲全・王主年)にガイド役に日本隊14名。

23日の早朝に阿里山賓館を発ってバスにて上東埔の駐車場へ、入山手続きのあと乗客7人乗りのワゴン



阿里山賓館玄関にて

車へ分乗、登山口の塔塔加鞍部(2,600m)で後続車を待って、林哲全ガイドのブリーフィングのあと午前10時半に登山を開始した。山頂部は雲が掛かっていたが登山口付近は陽ざしがあり、標高に似合わず汗ばむほど暑い。拝雲山荘まで8.5km、深く切れ落ちた溪谷の急斜面が足元に迫っている。タイワンツガ(鐵杉)などの高木樹林帯が続き、また金門銅断崖や大絶壁(大峭壁)などの古代地層が露出する景観も見事であった。最後の「心臓破りの階段」を登り詰め、先行パーティーの「ヤンヤ」の拍手に迎えられ拝雲山荘に午後4時過ぎに到着した。山荘内の床にマットを敷いた棚式部屋で荷物を整理した後、配られた食券を手に1階の食堂で早い夕食。メニューは豚肉ご飯とスープ、それに窓越しに見える美しい夕日だ。明日のため19時には就寝。

翌朝午前2時に起床し、朝粥を手早く啜って。ヘッドランプの明かりを連ね主峰へ出発。高木からハイマツ帯に移り、森林限界線の3,600mを超えると、岩稜帯が続く。寒気と霧で凍てついた鎖場を越え、午前6時に絶頂に立つ。霧で期待したご来光は拝めなかったが、東北アジアの最高峰「玉山」の山頂に立てたことで皆大満足であった。拝雲山荘に戻り、あっさり味の中華麵で2度目の朝食を頂いた後、午前9時過ぎ往路へ下山開始。午後2時過ぎ塔塔加旅客センターで森林観察隊のみなさんに「登頂おめでとう」の言葉で迎えられ、一緒に遅い昼食を摂った。登頂してきたことが改めて嬉しく感じられた。

日台韓アジア自然環境会議

25日、14:30～17:00、高雄市内にある国軍英雄館にて、台湾・韓国を交えて日台韓アジア自然環境会議が行われた。中華民国健行登山会：陳慶章理事長、中華民国登山協會：何中達理事長、韓国：李仁禎U A A会長、日本：神崎忠男日山協顧問をはじめ60名ほどが参加し、中華民国健行登山会の黄一元副理事の総司会司会で開会式が、本木日山協顧問のセッション司



日台韓アジア自然環境会議の様子



玉山登山の様子

会にて会議セッションが行われた。会議セッションでは、台湾から雪霸・寿山の各自然公園管理所係官から自然保護(山岳トイレ)の状況説明、日本側から上・松隈にて世界と日本のトイレ事情について、韓国の自然保護事情(京美)、最後に玉山国家公園の状況(管理所長 林文和)から説明が行われた。

会議のコンクルージョンに立った神崎顧問は、「各国とも山岳トイレについてはそれぞれに行われていることは理解された。こうした山岳自然保護活動も各国が連携して情報交流を進め活動が一層のものとなることが望まれる。参加各国の今後に大いに期待するところである。」と締めくくった。

この会議は、中華民国健行登山会の全国幹部懇親行事のプログラムの一つとして行われたもので、会議あと彼等のレセプションに加わり、日台韓の交流を行った。

26日、主な訪台目的を終え、高雄から台湾高鐵を台中で途中下車、迎いのバスで日月潭にある九族文化村で台湾原住民(先住民とは言わないとのこと)の生活ぶりを見学し、午後3時頃に中山高速公路を台北に向けバスで向かう。途中渋滞に遭い、午後8時過ぎに中華民国山岳協会の幹部が待つ台北市内に着し、1時間ほどの懇親会を行った。

明けて27日、台北の市中観光で時間を調整、夕刻の松山空港発チャイナエアラインC I 222便にて離台、夜更けの羽田へ全員無事帰国した。

*

今回の訪台は、2014年に広島で開催されたU A A A創立20周年記念国際シンポジウム「登山と山岳自然保護」(日山協自然保護委員総会と併催)に端を発し、山岳自然保護を通じた国際交流をと心に温めてきたものを実現したものである。

(日山協自然保護委員会 松隈・堀江記、H A T - J 内田記)

平成29年度 登攀技術研修会、主任検定養成講習会、上級指導員養成講習会報告

平成29年10月28日(土)～29日(日)に 福島県の聖ヶ岩ふるさとの森・聖ヶ岩ビジターセンターにおいて登攀技術研修会および主任検定員養成講習会、上級指導員養成講習会が開催された。

今回は研修13名、A級主任検定2名、B級主任検定4名上級指導員養成講習12名、講師7名、福島県スタッフ10名の計48名での開催となった。参加者は東北地方以外九州、広島、石川、関東からも広く参加いただき、例年以上の参加者となった。開催場所の聖ヶ岩は地元、白河山岳会の方々から自ら開拓されたゲレンデですが、ビジターセンターのボルダリング施設も含めて非常に環境の整った施設でした。

また、スタッフの福島県山岳連盟の方々には、岳連総出で、真心のこもった、手作りの懇親会を開いていただき、その他にも多大なご協力をいただきました。改めて感謝申し上げます。

以下に参加者の代表の感想を掲載いたします。

(指導委員会 野村)

平成29年度 登攀技術研修会に参加して

石川県山岳協会 石川山岳会 坂田孝雄

10月28～29日、石川県金沢市から研修会に参加しました。29日の天気予報が雨との事で予定を変更して、28日は屋外で、タイヤ落とし、ビレイヤーの脱出、宙づりからの脱出を行いました。最初にタイヤを50kg、70kg(砂袋20kg)落して墜落者を止める想定で確保するのを行う、講師より少しでもダメージを少なくするにはロープを少し流しぎみにして、確保しなさいと説明されたが、緊張して、急に止めたり、流しすぎたり、うまく出来ずの連続その他に制動確保の姿勢、ロープの出し方、引き方も指摘され反省することばかり、次にビレイヤー脱出で、墜落者をロープで制動確保し仮固定をしてから、スリングとカラビナを利用してマッシュャー・フリクションヒッチを作る。確認しながらメインロープを少しずつ緩めて解除、次に、アンカーにセットしてあるカラビナにムンターヒッチを作って再びメインロープを仮固定し、フリクションヒッチを徐々に緩めて解除する。最後にメインロープの仮固定を注意しながら解除してムンターヒッチで墜落者を少しずつ引き下げして、一連のシステムが終了する。次に同時進行に、宙づりの状態で自己脱出をす



る方法で、2本のプルーゾック用のスリングを利用して、メインロープにプルーゾックを作って、スリングとセットでスリングに足をかけ、一方ではスリングをハーネスに着け、2箇所フリクションヒッチを利用して登高する方法を行い、その日の研修予定が終了する。

その後は、和やかな雰囲気の中で夕食を兼ねた研修会に参加された方々の自己紹介と懇親会が行われました。

29日は、朝から雨が降りビジターセンター内で、できなかった事、制動確保技術でロープの送り出し、引き留めの手の動かし方、ジャンプをして止める練習、自己脱出の練習等実技の反復練習を行い、机上の研修では、カラビナの種類、用途によってどれがあうかの説明、アンカーの取り方では、流動分散、固定分散のセットの仕方、良い例、悪い例の説明、ロープの種類、規格、ロープワークでどの箇所にか合うのか、結束強度の実験等の動画を見て知識を深めることが出来ました。2日間の充実した研修で、自分には、何ができ、何が苦手なのか今後活かしていきたいと思います。また、地元に戻って、仲間に新しい事、こんな事やったよと、伝える事ができれば良いかと思っています。

最後に、今回の研修会に、自然に恵まれた、聖ヶ岩ふるさとの森・ビジターセンターにて運営して頂いた福島県山岳連盟、白河山岳会スタッフの皆様手厚いおもてなしお世話頂き、日本山岳・スポーツクライミング協会の講師の皆様、熱血漢溢れるご指導して頂きまして有難うございました。

全国理事長会議

日時 平成30年2月18日(日)10時30分～
会場 フォーラムエイト514号室
渋谷区道玄坂2-10-7 新大宗ビル
☎03-3780-0008 渋谷駅徒歩約5分

スポーツクライミング 第13回ボルダリングジャパンカップ 一般参加選手選考会

12月9日(土)から10日(日)の2日間にかけて、「スポーツクライミング第13回ボルダリングジャパンカップ一般参加選手選考会」が愛知県名古屋市「Play Mountain! 名古屋 I C店」で開催された。この大会は、従来エントリーすれば誰でも参加できる状態だったボルダリングジャパンカップを、ボルダリング日本一を決定する大会としてより相応しいものにするために昨年度より実施している。今年は男女共に昨年よりも参加選手数が増え、男子145名(131名)、女子44名(前回38名)、合計175名の選手が、男子60名、女子30名の本戦出場枠獲得をかけて参加した。



【1日目・女子】

女子は人数がそこまで多くはないため、全員が同じ5課題で競技を行う1グループでの実施となった。女子だけでなく男子にも共通していることだが、参加者のレベルに対する課題の難易度は昨年よりも高くなっており、完登率も課題によってかなり幅があった。5課題中1課題でも完登していれば本戦出場の可能性があったということからもかなり厳しめのルート設定だったことがわかる。平野夏海、樋口結花、森脇ほの佳といった愛媛国体の上位チームの選手が本戦出場権を無事獲得し、特に波乱なく終了した。

また、1日目の競技終了後には、翌日の会場整備と並行して審判員のC級からB級への昇級審査の一部である筆記試験も実施された。今回は8名の審判員が昇級を目指して審査を受けたが、選手の競技レベルと同時に審判員やルートセッター、その他スタッフの質を向上させることも必須である。そういう観点からも全国規模のこの大会を地方で開催することにも意義があると感じた。(ルートセッターの昇級審査対象は3名。)



【2日目・男子】

男子は昨年に引き続き各グループで内容の似通った5課題をトライする2グループでの競技方式で実施した。当初参加申込があった160名から不参加等で145名に人数が減ったものの、1グループ約70名で全体の競技時間が6時間を超える長丁場となった。途中競技時間を表示するタイマーの電源が落ちるというアクシデントがあったが、すぐに競技を再開できたので概ね予定通りに進行した。女子同様、男子も完登率は昨年よりも低く、特にグループ間での完登率の差が10.4ptとかなり難易度に差が出てしまった。同じ形状のウォールを2組用意することは現実的ではないが、2グループで競技を行う場合はそれぞれが似通った内容、性質の課題であることが競技規則上求められていることから、この点に関しては今後の課題として考えるべきことだろう。結果としては、野村真一郎や樋口純裕、清水裕登といったリード日本代表組や、清水淳、高田知亮などのボルダー上位陣も難なく本戦出場権を獲得し、女子同様波乱のない展開となった。

最後になりましたが、大会実施にあたりご尽力いただきました「Play Mountain! 名古屋 I C店」、愛知県山岳連盟の皆様には深く御礼を申し上げます。

(羽鎌田直人)



第4回海外登山懇談会 「カナダのアイスクライミング」報告

11月16日(木)19時から21時にかけて、代々木の国立オリンピック記念青少年総合センターの80人室において、第4回海外登山懇談会を開催いたしました。この懇談会は、仕事帰りに気軽に山の話聞いてもらうことを目的に、平日の夜に参加費500円で開催しています。今年のテーマは「カナダのアイスクライミング」。カナダは日本にはないようなスケールの大きなアイスがたくさんあり、また環境も整っていて比較的手軽に楽しめることから、近年は日本人も多く出かけるようになっていきます。その魅力と情報をお二人の講師に話していただきました。参加者は総勢37名。

まず一人目は石間真理さん(山岳同人チーム84所属)。学生時代より山に関わり、カナダのアイスは12年前の渡航が最初。一時期アイスコンペでも活躍しましたが、いまは難ルートや初登ルートを登りながら、自身のアイスクライミングを楽しんでいます。

石間さんからは、カナダのアイスを一人旅するための情報を伺いました。旅行のタイミングや天気を読みから、長期滞在して楽しむための宿泊術、移動手段としてのレンタカーの価値、パートナーの見つけ方、役に立つ情報サイトとその活用方法など、現実に即した詳しい話をしていただきました。よく整理された配布資料も価値あるものと思います。そして何より、石間さんのクライミング哲学に感銘を受けた参加者も多かったようです。過去に不意落ちした経験から、いかに安全に登るかを考えて、不意落ちが許されないフリーソロをする人の技術が必要と気づいてそれに取り組んだこと。自分の体のコンディションとアイスの状態を見極めて(氷と会話すると言っていた)フリーソロをすること。パートナーを現地で探すにあたって自分の身を守るために、ロープやギアは自分のものを使ってもらうようにすることなど、自身がいかによりやりたいクライミングをするか、いかに安全に登るかを考えて取り組んでいる姿勢に、求道者のぶれ



佐藤英明講師



石間真理講師(右)

のない心根を感じました。

二人目は佐藤英明さん(ぶなの会所属)。石間さんが時間が自由なのに対して、佐藤さんは会社勤めの傍ら、正月休みを利用して最近4年間はカナダに出かけているとのこと。短期滞在で効率よくカナダのアイスを楽しむ術を紹介してくれました。

カナダのアイスはアプローチが楽で、大きくて素晴らしいラインが多くあり、宿泊や食事、レンタカーなどの環境も整っていて、短期滞在でも十分に楽しめる場所であるとのこと。レンタカーの損しない借り方や、各地のホステルの様子、スーパーマーケット事情、登山用品店情報など、細やかだが実際に直面しやすい問題についても、旅行談を交えながら楽しく話していただきました。アプローチしにくいエリアに行く時には、現地ガイド(日本人)を雇うことも有効だそうです。また家庭持ちの勤め人が海外登山に行く場合にいつも気になることですが、家族や会社へのお土産はどんなものがいいか、というお話も現実味があって面白かったです。

講演の後はお二人に演壇に出ていただいて、会場からの質問に答えていただきました。熱心なアイスクライミング愛好者もいて、質問は次第に熱を帯び、終了時間いっぱいまで続きました。その後の懇親会にも講師をはじめ多くの方が参加してくださり、アイスクライミング談義に花が咲きました。

今回の懇談会は各講演の内容も濃く、全体の構成も良かったと思います。貴重な情報も多くありました。参加していただいた方々にはぜひこの懇談会の情報を生かして、ご自身の登山に役立てて欲しいと思います。

主催者としては、時期的にアイスクライミングへの関心が高まっていなかったこともあるかも知れませんが、もっと参加者を集めたかったところです。せっかくの貴重なお話も、多くの人に伝わらなければもったいないものになります。告知のやり方、会場や時期など、事業を有効に生かす策を今後も考えていきたいと思っています。

(国際委員会委員長 澤田 実)

日時 平成29年12月14日(木)
場所 岸記念体育会館・4階特別会議室
出席者 八木原会長、亀山、高橋、伊藤、平山の各副会長、尾形専務理事、小野寺、水島、村岡、小日向、合田、仙石、蛭田の各常務理事、中島、古屋監事
欠席者 町田常務理事
出席委員長 9名(相良財政、中瀬普及ジュニア、松隈自然保護、六角SC医科学、西原国体、山本SC技術、安井選手強化、稲村広報、角田A D)
欠席委員長 2名(澤田国際/山岳スキー、齋藤登山医科学)

1. 各委員長に対する説明

- ア) 組織改編について
尾形専務理事が資料に基づいて説明。
イ) 公益法人のガバナンス(組織活動上の統治)、インテグリティ(高潔性)、サステナビリティ(持続可能性)について合田ガバナンス委員長がパワーポイントで説明。
ウ) 平成30年度予算編成方針について、相良理事が資料に基づいて説明。
エ) その他
小日向常務理事から競技ルール等に関するIFSCの動きについて報告。
安井選手強化委員長から、最近の強化委員会の動静についての報告。
西原国体委員長から国体の競技施設や競技日数に関して報告。

2. 議事

- (1)平成29年度11月常務理事会・議事録の承認について(事前送付済)
異議なく承認された。
(2)新春懇談会特別表彰について
8名の候補者が、異議なく承認。優秀選手表彰候補者は、後日追加承認を諮ることです承。
(3)第7回日本山岳グランプリの承認について
古原和美氏(長野県山岳協会)を承認。
(4)全国理事長会議次第について
一部訂正の後、異議なく承認。
(5)BJC企画(要項、予算詳細)の承認について
誤字等の訂正を行い、承認。
(6)日本アーバンスポーツ支援協議会設立準備会議について
理事候補として小日向常務理事及び西谷ヘッドコーチを推薦することで承認。
(7)JOC女性スポーツ賞候補者推薦について
(8)JOCトップアスリートサポート賞候補者推薦について
(9)スポーツ指導者海外研修事業推薦について
(10)ミズノスポーツメントール賞受賞候補者の推薦について
(11)日本スポーツグランプリ候補者推薦について
以上、(7)～(11)は候補者推薦無し。

3. 報告事項

- (1)平成29年度11月度会計報告
(2)アジア選手権準備進行状況報告
(3)BJC一般予選会報告
(4)IFSCオーガナイザーミーティング報告
(5)IFSC世界選手権2019について
(6)アジア総会について
(7)国際人養成アカデミー修了者について(小

- 日向常務理事が修了)
(8)アスレチックトレーナー新規受講者推薦について
(9)平成29年度日体協表彰について
(10)スポーツライミング結果(10,11月)報告
(11)SC世界ランキング日本人10位以内の報告
(12)都岳連新春の集いについて
1/20(土)、ホテルJALシティ田町
(13)博報堂のセールス報告について
2017年のマーケティング・セールス報告があった。2017年のレベニューシェアは派生しなかった。

4. 指導員・審判員 検定結果報告

- (1)山岳指導員
北海道 宮郁子 1名
(2)SC上級指導員
受講者: 8名全員合格、工藤秀之(山形)、佐藤優哉、津田洋志、菅沼俊一、竹内肇、二郷康範、森大輔、松島由希(以上宮城)上記については異議なく承認。

5. 後援報告、協賛等の依頼について

- (1)国交省雪崩防災週間後援名義承認
上記については異議なく承認。

6. 専門委員会動静

- 11月(11月6日～12月5日)
(1)指導委員会
11月6日(月) 出席者14名、委任2名
ア)夏山リーダー制度について
10/16開催 次回は、11/20(月)
イ)義務研修について
①ブロック別研修会の申請依頼
②普及委員会
中高年安全登山指導者講習会(東部・西部)(義務研修会)
ウ)登山技術研修会について
10/28,29, 福島
エ)三重県山岳連盟よりの借用品について
オ)ウインチ・ケースの破損について
カ)ブロック大会での監督資格違反について
キ)スポーツ指導者専門科目修了認定申請について
ク)SC上級指導員養成中央開催(11/4,5,11,宮城会場)について
ケ)SC主任検定員養成講習(更新のみ)について
コ)ドキュメントについて
①平成29年度SCテキストの進行状況
サ)氷雪技術研修会(2月、大山)について
シ)日体協オフィシャルブック改定締切りについて
ス)都道府県山岳連盟(協会)へ30年度の指導者養成講習会開催アンケート送付について
セ)SC学科試験問題集の配布
(2)指導委員会-2
12月4日(月) 出席者13名、委任4名
ア)夏山リーダー制度について
イ)遭対委員会報告
ウ)平成30年度の日山協オフィシャルブックに変更について
エ)スポーツ庁からの冬山登山の事故防止通達について
オ)スポーツ指導者専門科目修了認定申請について(申請無し)
カ)SC上級指導員養成中央開催(宮城会場)の可否について
キ)SC主任検定員養成講習(更新のみ)の可否について
ク)予算会議(12/2)報告
ケ)氷雪技術研修会(2/17,18,大山)について
(3)遭対委員会
10月25日(水) 出席者10名
ア)UIAAテキスト翻訳について

- 1)山岳セーフティーカード冬バージョンについて
ウ)レスキュー講習会(積雪期)について
1/26～29,土合山の家
エ)山岳共済会への要望について
オ)ジュニア指導の教育に関する件について
3月の那須雪崩事故を受け、国立登山研修所では高等学校の登山部顧問に対し講習会開催。(12/9,10)
カ)AVSARが正式に発足
2/20～22,白馬or土合で開催。
(4)山岳スキー-1
10月31日(水)21:00～23:00
ネット会議 出席者5名
ア)報告事項
アジア選手権の中国開催依頼について(中国での開催予定)
イ)協議事項
①第12回日本選手権について
コース、予算、制作物等について
②30年度の山岳スキー委員会の事業計画及び予算について
(5)山岳スキー-2
11月22日(火)21:00～23:00
ネット会議 出席者5名
ア)報告事項
中国WCに藤川健、小寺教夫、山田宏の3名が出場予定
イ)協議事項
①第12回日本選手権について
・コース・開催要項・宣伝、ポスター・表彰式会場・今後の工程について
②30年度山岳スキー委員会の事業計画及び予算について
(6)山岳スキー-3
12月7日(木)20:00～21:40
ネット会議 出席5名、委任1名
ア)11/30白馬観光開発(株)、樽池高原観光協会に挨拶
イ)第12回日本選手権について
ウ)30年度の山岳スキー委員会の事業計画及び予算について
(7)第3回SC医科学委員会
11月18日(土) 出席者6名、委任3名
1)組織・管理運営規程について
2)競技会医務担当割り当てについて
①BJC一般予選(12/9,10,名古屋):大森委員(10日加藤委員アシスト可)
②全国高等学校選抜クライミング選手権大会(12/23,24,加須):中島、樋口委員
③BJC(2/3,4,東京):大森委員
④リード日本選手権(3/3,4,加須):中島委員
⑤ユース日本選手権リード(3/24,25,26,印西):六角委員
3)2017年選手・スタッフ合同ミーティングについて
4)各業務担当委員より報告
①学術担当(大森委員)
②救護担当(中島委員)
③パラクライミング担当(樋口委員)
④メディカルチェック担当(西谷委員、六角委員)
5)その他
①救護ベストの作成(中島委員)
②クライミング傷害に関する教育
③委員会内の連絡手段
④委員の資格確認
(8)国体委員会
11月16日(木) 出席者 名、委任
ア)特別報告事項
①第72回国民体育大会九州ブロック大会の監督資格違反について
イ)審議事項

- ①第73回国民体育大会準備状況について
- ②国体改革スケジュールと役割分担について
- ③ブロック別研修会について
- ウ) 報告事項
- ①国体後催島の準備状況について
- ⑨国際委員会
- 12月5日(火) 出席8名、委任5名
- ア) 第4回海外登山懇談会の報告
- 11/16(木)「カナダのアイスクライミング」
- 参加者24人、スタッフ10人、講師2人
- イ) 平成30年度総会/第57回海登研について
- 6/23、24、栃木県青年会館コンサレー
- ウ) 国内外に向けてのHP案について

7. その他の重要事項

- 11月7日～12月15日
- (1)高校生等の冬山・春山登山の事故防止のための有識者会議 11月7日(火)
- 於：スポーツ庁 尾形専務理事
- (2)UIAA登山部会 11月9日(水)～14日(火)
- 於：キプロス 青山遭対副委員長
- (3)平成29年度アンチ・アンチドーピング教育・啓発会議 11月9日(水) 於：大手町産経プラザ4階
- 西原アンチドーピング副委員長
- (4)自然保護指導員研修会 11月11日(木)
- 於：オリンピック青少年センター
- 松隈委員長
- (5)加須市長表敬 11月13日(土) 於：加須市役所
- 八木原会長、村岡常務理事、中瀬理事
- (6)中村保氏、29年度生涯スポーツ功労賞受賞祝賀会 11月14日(日) 於：京王プラザホテル新宿
- 神崎顧問、八木原会長、亀山副会長、尾形専務理事、小野寺常務理事

- 事
- (7)IFSCマルコ会長来日 11月14日～16日
- 於：組織委員会等 八木原会長、平山副会長、尾形専務理事、SC部常務理事、小野寺常務理事
- (8)JSC、30年度助成金等説明会 11月15日(火)
- 於：日本青年館 小野寺常務理事
- (9)第4回海外登山懇談会 11月16日(水)
- 於：オリンピック青少年センター
- 亀山副会長、澤田委員長
- (10)西条市長表敬来局 11月17日(木)
- 於：スポーツマンクラブ
- 八木原会長、尾形専務理事
- (11)幕張総合高校 スピード壁落成記念式典 11月19日(土) 於：幕張総合高校
- 八木原会長
- (12)全国山岳遭難対策協議会幹事会 11月20日(日) 於：スポーツ庁
- 町田常務理事、浦池事務局員
- (13)大阪府河南町々長表敬来局 11月21日(月)
- 於：事務局 尾形専務理事
- (14)(一財)全国山の日協議会理事会 11月22日(火) 於：弘済会館 尾形専務理事
- (15)IFSCイベントオルガナイザー会議 11月25日(金)～26日(土) 於：トリノ
- 平山副会長、村岡常務理事
- (16)国立登山研修所創立50周年記念式典・祝賀会 11月26日(日) 於：パレプラン高志会館
- 八木原会長
- (17)JOC/NF国際フォーラム 11月28日(火) 於：味の素トレセン
- 小野寺常務理事
- (18)高校生等の冬山・春山登山の事故防止のための有識者会議 11月28日(火)
- 於：スポーツ庁 尾形専務理事

- (19)第12回山岳スキー日本選手権大会地元表敬 11月30日(木) 於：白馬観光開発ほか
- 尾形専務理事、澤田委員長
- (20)近畿地区山岳連盟総合会議 12月2日(土)～3日(日) 於：滋賀比良げんき村
- 平山副会長、合田常務理事
- (21)スポーツ・フォー・トモロー 12月7日(木) 於：新宿NSビル30階
- 尾形専務理事、小野寺常務理事
- (22)労山望年会 12月7日(木)
- 於：労山事務所 八木原会長、尾形専務理事、小野寺常務理事
- (23)第13回BJC予備予選会 12月9日(土)～10日(日) 於：プレイマウンテン名古屋 村岡常務理事
- (24)平成29年度指導者全国研修会 12月9日(土) 於：TKPガーデンシティ品川 蛭田常務理事
- (25)平成29年度第2回加盟団体連絡会議兼ドーピング防止研修会 12月15日(金)
- 於：ベルサール飯田橋ファーストホール
- 西原AD副委員長



編集後記

明けましておめでとうございます。毎年西暦の標高を目指すピークハンターがいるようで昨年は2017mの雲取山が人気だったようです。今年の2018mを探すと飯豊に烏帽子岳があります人気になるでしょうか。登山にはこだわりが大切だと思います。今年も宜しくお願いします。

(広報担当 水島彰治)

寄贈図書

寄贈本	東京新聞	「鎌倉&三浦半島 山から海へ30コース」著：樋口一郎
雑誌	山と溪谷社	「ROCK & SNOW」078
	(株)シマノ	「Fishing Café」VOL.58
日報	(株)ネイチュアエンタープライズ	「岳人」No.847
	(株)山と溪谷社	「山と溪谷」No.993
	全日本ボウリング協会	「JBCnews」第553号
	(公財)健康・体力づくり事業財団	「健康づくり」No.476
	兵庫県山岳連盟	「兵庫山岳」第606号
	(公財)京都府体育協会	「体協時報」第126号
	一等三角點研究会	「聳嶺」第十号
	(公財)日本体育協会	2017年12月14日号 体協フェアプレイニュース/体協スポーツニュース
	(公社)日本武術太極拳連盟	「武術太極拳」No.339
	長野県山岳協会	「やまなみ」No.227
	(公社)日本山岳会 自然保護委員会	「木の目草の芽」第130号
	(公社)日本山岳会 越後支部	「越後山岳」第13号 越後支部創立70周年記念
	日本勤労者山岳連盟	「登山時報」No.515
	La rivista del Club alpino italiano	「Montagne 360」2017.12
	豊岡市立植村直己冒険館	「植村直己冒険賞2016」
	やまびこ山想会	「やまびこ」第174号
	(一財)日本防火・防災協会	「地域防災」No.17
	日本山岳写真協会	「日本山岳写真協会ニュース」第448号
	(公社)日本山岳会	「山」No.871
	(公財)全国高等学校体育連盟	「全国高体連ジャーナル」Vol.34
東京野歩路会	「山嶺」VOL.95	
Korean Alpine Federation	「大山聯」Vol.228	
(一社)大阪府山岳連盟	「山岳おおさか」No.215	

<p>一般財団法人 日本トレイルランニング協会 神奈川事務局</p> <p>〒252-0184 神奈川県相模原市緑区小淵1545-1 ☎042-687-4011 FAX 042-687-3980 E-mail kitatanzawa@kib.biglobe.ne.jp</p>	<p>NPO法人 北丹沢山岳センター 神奈川県・山梨県東部トレイルラン連絡協議会</p> <p>事務局 〒252-0184 神奈川県相模原市緑区小淵1545-1 TEL 042-687-4011 FAX 042-687-3980 E-MAIL kitatanzawa@kib.biglobe.ne.jp</p> <ul style="list-style-type: none"> ○北丹沢12時間山岳耐久レース実行委員会 ○陣馬山トレイルレース実行委員会 ○道志村トレイルレース実行委員会 ○八重山トレイルレース実行委員会 ○東丹沢宮ヶ瀬トレイルレース実行委員会 ○上野原秋山トレイルレース実行委員会 <p>大会々長 杉本憲昭</p>
--	--

登山月報 第586号

定価 110円(送料別)
 予約年間 1,300円(送料共)
 昭和45年12月12日
 第三種郵便物認可
 (毎月1回15日発行)

発行日 平成30年1月15日
 発行者 東京都渋谷区神南1-1-1
 岸記念体育会館内
 公益社団法人
 日本山岳・スポーツクライミング協会

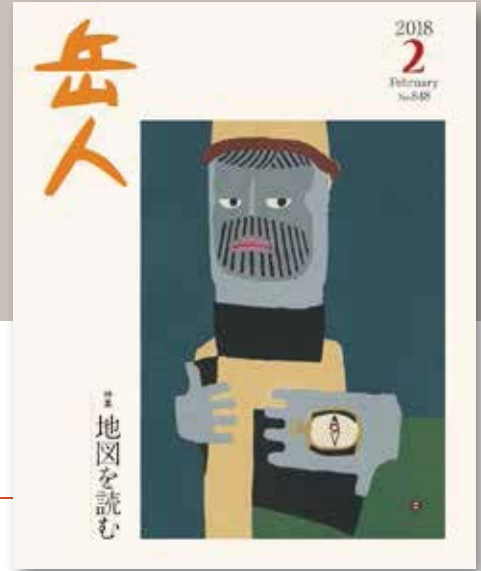
電話 03-3481-2396
 FAX 03-3481-2395

山岳
雑誌

岳人

がくじん

山と人、時代をつなぐ「岳人」



2月号
発売中

【特集】地図を読む

★モンベルのウェブサイト
全国のモンベルストアや書店にて発売中!

毎月15日発売 価格815円(+税)

年間購読がおすすすめです。

購読割引 送料無料 限定品プレゼント

年間購読なら、お得な価格で毎月お手元に冊子が届きます。

通常本体価格12冊 年間購読12冊
~~9,780円~~ (+税) → **8,965円** (+税)

1年間で815円
1冊分無料

年間購読特典 岳人オリジナルグッズをプレゼント!

岳人フォールディング スプーク

フィールドで活躍する
スプーン&フォーク。
岳人オリジナル
ケース付き。

※色はお選び
いただけません



▲折りたたみ時

さらに

ご継続の方に

はじめて
お申し込みの方に



岳人ピンバッジ オリジナルBOX

年間購読
お申し込み方法

●ウェブサイトで
<http://www.gakujin.jp/>

●お電話で(受付後に振込用紙をお送りします)
☎ 0120-982-682 / TEL 06-6538-5797
※フリーコールは携帯・IP電話からはご利用いただけません。

●全国のモンベルストアで
<http://store.montbell.jp/>

期待される、
という希望。

期待されすぎている、
という不安。



未来は、
希望と不安で、
できている。

明日をつよく。三井住友海上

www.ms-ins.com

立ちどまらない保険。

MS&AD

三井住友海上

あなたの 山岳保険は 大丈夫ですか？

山岳保険の加入は登山者のマナーです

日山協 山岳共済会 〒170-0013 東京都豊島区東池袋 3-7-11-707

TEL 03-5958-3396

FAX 03-5958-3397

E-mail sangakukyousai@mbd.ocn.ne.jp

月曜日～金曜日 10:00～17:00 (祝日除く)

携帯からも資料請求ができます。
公益社団法人日本山岳・スポーツクライミング協会
携帯サイト (www.jma-sangaku.or.jp/mobile/)



WEBからもお申込みいただけます (www.sangakukyousai.com)